

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「ゲーム障害・ネット依存とメディアとのつきあい方」
- 2 対 象 6 年児童、教職員
- 3 専門医 東海林 岳樹 医師
(山形県立こころの医療センター)
- 4 実施月 7月
- 5 内 容(キーワード)
依存症の脳のメカニズム 脳の前頭前野の一部が異常に興奮
大人はなぜゲームやネットを制限しようとするのか
ゲーム・ネット依存にならないために「余暇スキル」を身に付ける大切さ

評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*身近なゲーム内容を例に話していただき、自分事として子どもたちも理解できた。

*話し合いの時間もあり、考える時間を持つことができた。

②保健教育における校内連携について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*夏休み前の時期にこの内容を学習することで、夏休み中の生活の仕方をより深く考え、良い過ごし方を考えられるようになった。学んだことを実践につなげやすくなった。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*講演を聞きながらワークシートにメモをとり、シートをもとに講演内容を保護者に知らせ、保護者からコメントをもらう活動を仕組むことができた。

〔受講者の感想など〕

- 時間を守れないことが多かったが、依存症になりたくないの、その日何時ぐらいまでゲームをやるのか、親と相談して決めるようにしたい。
- 依存症になりたくないの、ネットやゲーム時間を減らすために別のことをやってみるようにしたい。(運動や絵を描くなど)
- もともと時間制限をしているけど、もう一回見直してみたい。

〔教科やその他の指導との関連性〕

- 体育科「保健領域」
- 生活リズム指導(日常・夏休み前指導)
- 生徒指導